

2012年の活動概要【エコ・ファーストの約束】



1. 製品を通じて低炭素社会の構築に積極的に取り組みます。



(1) 高効率温水機器（潜熱回収型、等）と創エネルギー機器（太陽熱利用機器、太陽光発電システム等）の開発と普及に積極的に取り組み、2016年までに、従来型ガス石油温水機器に比べ、家庭の使用時のCO₂排出量を20万t/年削減することを目指します。（2000年比）

2012年のCO₂削減貢献量は、2000年比で9.92万t/年になりました。これは家庭からの総CO₂排出量^(※)の約2.1万世帯分に相当します。

2016年目標である削減貢献量20万t/年は、約4.2万世帯分に相当します。

※温室効果ガスインベントリオフィス（2010年値）より、4,758t-CO₂/年/世帯（自家用車含む）



(2) 高効率温水機器及び、創エネルギー機器の開発推進とそれぞれの特長を活かした普及促進に積極的に取り組みます。

高効率温水機器（潜熱回収型、等）と創エネルギー機器（太陽熱利用機器、太陽光発電システム等）の開発と普及拡大により、製品使用時のCO₂を削減しています。

● 高効率
ガスふろ給湯器



GT-C(V)**52シリーズ

● 太陽熱利用
ガス給湯暖房システム

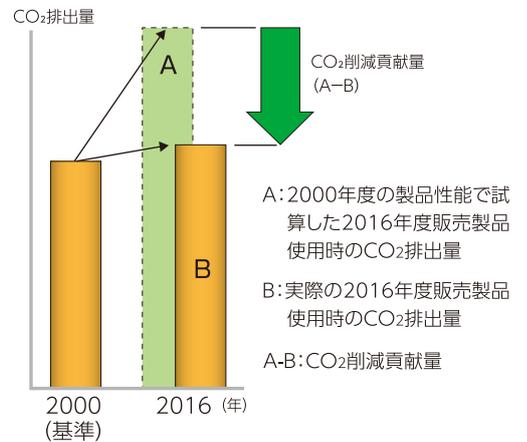


XFシリーズ

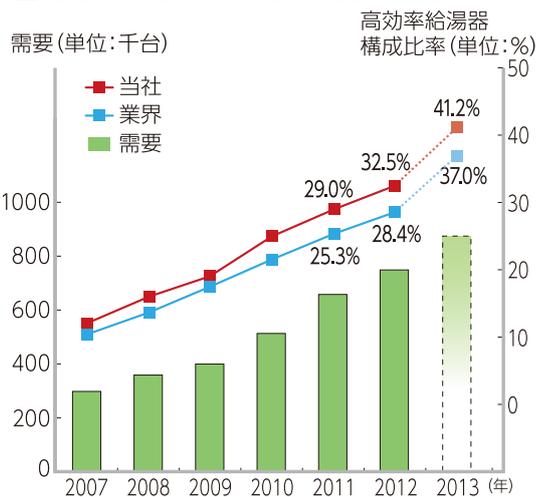
● ダブルソーラーシステム
太陽光発電システム+太陽熱温水器



■ 製品によるCO₂削減貢献量



■ 高効率給湯器の販売構成比率・需要



● 新エネルギー分野（太陽光、太陽熱関連）を加速

2011年に新設した「環境機器開発センター」（新エネルギー分野の研究開発棟）と「新エネルギー商品研修センター」（施工に必要な実技・知識を習得するための研修施設）を最大限に使用し、製品を通じての低炭素社会に向けての貢献を更に加速していきます。



環境機器開発センター



新エネルギー商品施工研修センター
(施設内部に模擬屋根を設置)



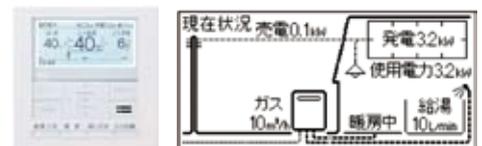
ショールームイベント (例)
「太陽まるとエコ生活提案会」



(3) グリーンプロモーションを強化し、「CO₂の見える化」など製品ライフサイクルを見すえた適切で具体的な商品・サービスの環境情報をお客さまにわかりやすく提供していく取り組みを積極的に推進します。

お客さまが省エネに配慮した使い方をされて、その効果を確認していただけるように、各種ナビゲーション機能や省エネ運転モードを搭載していきます。

● 高機能リモコン



リモコン表示例

太陽光発電システムとの併用で光熱費の「見える化」を実現



2.事業活動を通じて低炭素社会の構築に積極的に取り組みます。



- (1) 国内事業所におけるCO₂排出量を2016年までに20%以上削減、2020年までに25%以上削減することを目指します。
(2002年比)

2012年度の生産事業所におけるCO₂排出量は、21,627t(2002年比91.6%)となりました。

今後も目標達成に向けて、生産設備の省エネ化、照明のLED化、太陽光発電システムの導入、エネルギーの見える化を重点に、CO₂削減活動を推進していきます。



- (2) ノーリツグループとして全体最適化を考慮したエネルギー削減を統括的に推進するために「省エネ・マネジメント体制」を強化します。
(3) 業務改善と設備導入の両輪で計画的にCO₂排出量の削減に積極的に取り組みます。

■CO₂総排出量



● 環境に配慮した生産活動

ノーリツグループでは、生産事業所を中心に、地球温暖化となるCO₂削減、省エネルギー活動や廃棄物の削減と資源循環の推進、環境汚染の予防・防止に、継続的に取り組んでいます。

また流通においても、輸送の効率化を図り、CO₂削減に取り組んでいます。

■2012年度エネルギー使用量と環境負荷



● 冬の節電・夏の節電について

「冬の節電」(2011年12月～2012年3月)

節電目標は、前年同月の最大使用電力(ピーク電力)の90%以下として取り組みました。

最大使用電力	2011年12月	2012年1月	2012年2月	2012年3月
目標(kW)	10,013	10,432	10,283	9,879
実績(kW)	9,684	10,099	10,235	9,939
(%)	84.8%	87.0%	89.6%	90.5%

「夏の節電」(2012年7月～9月)

節電目標は、2010年同期間の最大使用電力(ピーク電力)の85%以下として取り組みました。

最大使用電力	2012年7月	2012年8月	2012年9月
目標(kW)	11,390	←	←
実績(kW)	10,683	10,870	10,751
(%)	79.7%	81.1%	80.2%

ノーリツグループは、2011年からの節電活動を継続し、設備面では太陽光発電システムの設置、照明のLED化・人感センサーの設置、電力監視システムの導入等を実施し、運用面では、空調の温度設定、照明の休憩時・不在時の消灯、PC・OA機器の省エネ設定、自販機の削減・省エ



ネ設定、クールビズ(スーパークールビズ)、ウォームビズ等を実施しました。2013年も継続して、節電活動に取り組みます。



節電パトロール(明石工場)詳細は、
<http://www.noritz.co.jp/news.html>

2012年の活動概要【エコ・ファーストの約束】



3. 法規制を先取りした化学物質管理を強化し、環境汚染リスクを低減します。



(1) 自主的な取り組みとして2006年から導入している有害物質対応商品を2016年までに販売構成比80%以上になるように開発と普及に積極的に取り組みます。

※温水機器、厨房機器、ソーラー機器、暖房機器、コージェネレーション機器が対象。

「ノーリツグループ環境負荷物質管理指針」をもとに、有害物質対応商品^(※1)の新商品開発に取り組んでいます。有害物質対応商品の品数を増やすことにより、販売構成比の拡大を図っています。

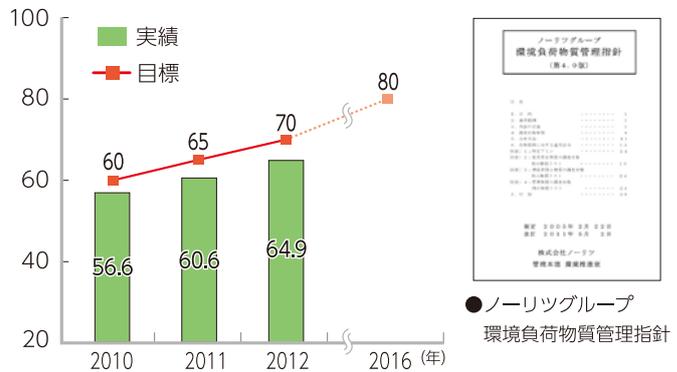
有害物質対応商品の販売構成比を拡大していくにあたっては、仕入先・購買・設計が連携し商品開発を進めています。また、営業・販売先における取り組みも重要になります。これからの、サプライチェーン全体で有害物質対応商品の拡大に取り組んでいきます。

※1 有害物質対応商品:RoHS指令^(※2)対象6物質にノーリツ独自の13物質を加えた19物質を基準濃度以下にした商品。

※2 RoHS指令:電機・電子機器に含まれる特定の化学物質(鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、特定臭素系難燃剤2種)を使用禁止。温水機器及び厨房機器は対象外であり、ノーリツグループにおいては自主的取り組み。

■有害物質対応商品の販売構成比の推移

対応率(単位:%)



●ノーリツグループ環境負荷物質管理指針



(2) 2010年7月以降の新商品(温水機器及び厨房機器)より、REACH規則で定められた化学物質の含有状況を管理し、EU向け商品だけでなく、国内向け商品に対しても情報開示ができるようにします。

(3) 有害物質の低減及び含有情報の精度向上を図るために、化学物質管理システムの構築、化学物質監査等を通じてサプライヤーとのコミュニケーションを積極的に行い、グリーンサプライチェーンの強化に取り組めます。

REACH規則で定められた化学物質の含有状況の管理については、2012年も新たな機種を選定し、サプライチェーンと協力し調査・含有状況の把握を行いました。

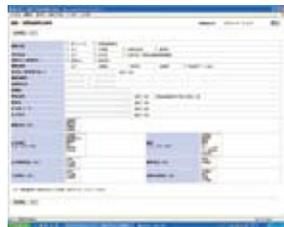
ノーリツグループのサプライチェーンにおける考え方は対等・公正な取引を行い、サプライヤーと共存・共栄に努めることとあります。そのために環境・品質・価格・納期などの項目で相互の信頼関係を築いていきます。

環境の部分においては「ノーリツグループ環境負荷物質管理指針」による有害物質管理や、サプライヤーの環境管理システムの導入・運用支援に取り組んでいます。

※REACH 規則：化学物質の登録、評価及び制限に関する規則

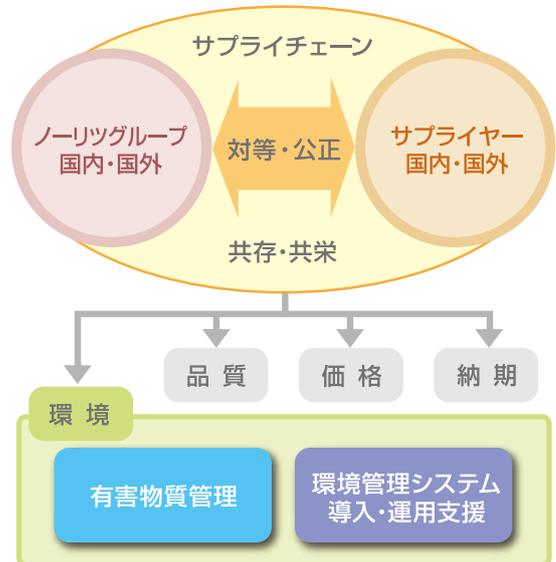


蛍光X線分析装置



GPネットの表示例

■サプライチェーンにおける考え方・取り組み





4. 製品・事業活動を通じて資源循環型社会の構築に積極的に取り組みます。



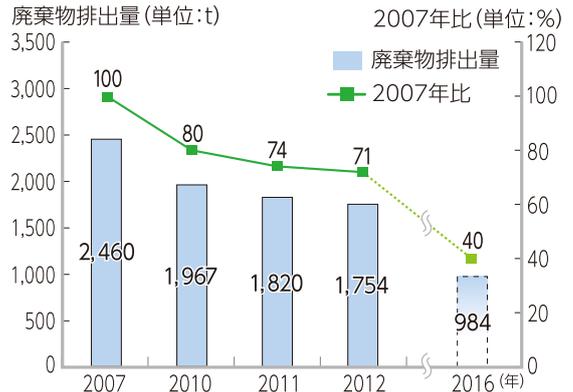
(1) 生産活動に伴い発生する廃棄物について、事業所外に排出する量を2016年までに60%以上削減することを目指します。(国内生産事業所2007年比)

ノーリツグループ生産事業所における2012年の廃棄物排出量(処理費用が発生する廃棄物が対象)は1754 t/年となり、前年度より66 t削減しました。

削減にあたっては排出そのものの削減と共に、適正な処理を行いながら有価として取引できるような取り組みをしています。これにより有効な資源として社会に還元することで資源循環型社会構築を目指しています。

2012年はグループ会社に重点を置き、活動を進めてきました。今後も法令遵守と資源循環を両立させ、資源循環型社会の構築を進めていきます。

■廃棄物排出量



責任者の声

株式会社アールビー 管理部 部長 川西 正晃さん

2012年度、アールビーでは、廃棄物の削減だけでなく廃棄物処理の適正化に取り組まれました。現状では、廃棄物の分別指導が不十分であることがわかりました。そこで、ノーリツグループにおける廃棄物削減の取り組みなどについて説明し、分別指導を再徹底したところ、関連する部門長から担当者までが自ら実施してくれました。今回の活動で、改めて教育の重要性を認識すると共に、社員の行動力の素晴らしさを実感しました。引き続き、活動の維持継続、廃棄物の適正な資源循環に取り組んでいきます。



(2) ノーリツグループの国内生産事業所のリサイクル99%以上とする取り組みを継続し、海外生産事業所においても2012年までに99%以上とすることを旨とし、その後継続します。

国内生産事業所において継続的に活動を行うことで、2012年もゼロエミッション(*)達成を継続しています。

海外生産事業所においては、能率(上海)住宅設備有限公司がゼロエミッションを継続すると共に、東莞大新能率電子有限公司も処理業者の選定を完了し2012年よりゼロエミッションを達成しています。

*ノーリツグループ・ゼロエミッション定義: 廃棄物の全重量のリサイクル率が99%以上となった月を3ヶ月以上継続し、今後も継続可能と判断した状態をゼロエミッションの達成とします。

■廃棄物集積場



本社工場



明石工場



加古川事業所



大成工業株式会社 本社工場



能率(上海)住宅設備有限公司



東莞大新能率電子有限公司